

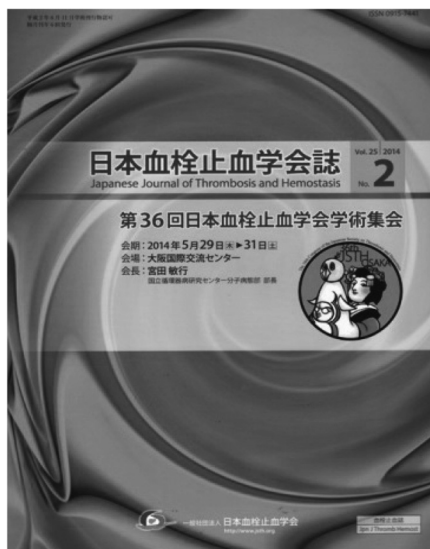
## 第36回日本血栓止血学会学術集会

山下 勉\*

第36回日本血栓止血学会学術集会が平成26年5月29日(木)~31日(土)の3日間、会長に宮田敏行先生(国立循環器病研究センター分子病態部部長)のもと、国立循環器病研究センター分子病態部に学術集会事務局をおいて、大阪国際交流センターにて開催されました。1978年4月に設立された日本血栓止血学会は、基礎系・臨床系の医学研究者および薬学、理学系研究者からなり、血液凝固、血小板、出血性素因などの臨床的研究から始まりました。しかし、近年の遺伝学、分子生物学、細胞生物学の応用と血管系研究の急速な進歩に伴い、現在では広域な分野の研究者から成る横断的、学際的性格の強い学会となっています。

我が国は、他に例を見ない急速な高齢社会を迎え、生活習慣病を中心とした疾患構造に大きく変化しました。生活習慣病の多くは循環器系疾患であり、血栓性疾患であることから、その病因病態の解明、治療、予防などにおける本学会の社会的使命は非常に重要であると考えられます。このような状況の中で開催された今回の学術集会は、私にとって、その内容の多様さは想像を超えるものでした。ポスターセッション：111、口頭発表：124の基本プログラムに加えて、以下の特別プログラムが企画、実施されました。特別講演3題：ADAMTS13とHITにスポットに海外から3名の研究者を招いての講演であった。教育講演5題：抗リン脂質抗体症候群、肺塞栓症、血小板異常症の分子病態、マイクロパーティクル、血友病Aの病態解析の進歩について教育的講演がなされまし

た。シンポジウムは、海外の日本人研究者シンポジウム4題：血小板産生機構の研究、DICや凝固モニタリングやインフルエンザウィルス感染時における凝固因子・血小板・PARの機能解析についての研究成績が報告されました。危機的出血への対応シンポジウム4題：術中大量出血症例に対する対応や抗血栓療法(抗血小板薬、抗凝固薬)を受けている患者での緊急手術への対応についてそれぞれの対応について実践的な討論が行われました。日本血栓止血学会/日本バイオマテリアル学会/日本バイオレオロジー学会合同シンポジウム



学会事務局オリジナルのキャラクター入りの学会抄録集

\*神戸学院大学栄養学部臨床検査学研究室 tsutomu@nutr.kobegakuin.ac.jp

3 題：「血栓形成：今蘇る Virchow の視点」と題してワークショップ I「細胞治療」「In vivo 解析」「研究検査」として各 2 題，学会本部企画 学術奨励賞受賞講演 2 題，JSTH/APSTH ジョイントシンポジウム「Asian-Pacific Research Perspective～アジア太平洋における研究展望～」と題して基調講演を含めて 5 題，アジア太平洋から研究者を招いてのシンポジウム 学術推進委員会 (SPC) シンポジウム 1「血管の発生および構成を制御する血球系細胞のダイナミクス」と題して 4 題，学術推進委員会 (SPC) シンポジウム 2「凝固とその制御：最近の話題－Coagulation and the control：Recent topics－」と題して 4 題，学術推進委員会 (SPC) シンポジウム 3「血小板減少の病態と分子メカニズム～最新の知見－Recent advance of physiology and molecular mechanism of thrombocytopenia－」と題して 4 題，企業共催企画として、日本血栓止血学会・日本循環器学会ジョイントシンポジウム「抗血小板療法のトピックス 動脈硬化/血栓性疾患の視点から」と題して 4 題，日本血栓止血学会・日本救急医学会ジョイントシンポジウム「DIC 診断/治療の新展開」と題して 4 題，日本血栓止血学会・日本脳卒中学会ジョイントシンポジウム「虚血性脳血管障害における抗血小板薬の二剤併用療法 (dual antiplatelet therapy; DAPT)」と題して 5 題，第 6 回 Bayer Thrombosis Seminar「NOAC 療法をめぐる～臨床現場の課題にどう対処するか～」と題して 4 題，第 7 回 DAIICHI-SANKYO SYMPOSIUM FOR THROMBOSIS UPDATE「血栓の形成とその制御の新基軸」と題して基礎：2 題，臨床 2 題アレクシオンファーマ共催シンポジウム「補体と血栓の基礎と臨床」と題して 5 題，プロテイン S 研究会シンポジウム「APC 凝固制御異常と血栓性素因」と題して 5 題，会長要請共催シンポジウム「ディベートセッション：NOAC における血液凝固マーカーの測定は必要か」と題して基礎：2 題，臨床：2 題，また、企業企画として、イブニングセミナー 1～3、モーニングセミナー 1～4「DAMPs と DIC」と題して 2 題，ランチョンセミナー 1～10 アフタヌーンセミナー 1 関連行事として、第 11

回血友病看護フォーラム 36 回日本血栓止血学会学術集会 市民公開講座 テーマ：「脳卒中・心筋こうそくを防ぐために知ってほしい知識」と、以上非常に意欲的なプログラム編成となっていました。

今回は、「学会のテーマ」が特に決められてはおりませんでした。それは、血栓止血の学問領域は多くの学部・研究施設の研究者からなることから相互に意見を交換できるような学術集会を目指すという意図からだとして理解しました。学術集会において血栓症・出血症に関する研究を、臨床と基礎の研究者が一堂に会して発表討論されました。本学術集会の内容の広さは、それに携わる研究者層の深さに反映されていると思います。多彩な研究者の集団の特性を生かし、相互に意見を交換できるような学術集会が目指されていました。その目的に一致して、基礎研究、病態解析、治療・予防、検査・診断というそれぞれの観点から十分に意見交換ができた学術集会であったと思います。

私が特に強調したいことは、本学術集会における新しい試みとして、特別講演と教育講演 (演者の了解を得たもの) について、ビデオ撮影が行われ、会員限定ではありますが、動画配信 (Webcast) を行っていることです。関連する ISTH (International Society of Thrombosis & Haemostasis) のウェブサイトでは既に、第 24 回国際血栓止血学会をはじめとした講演の Webcast が多数公開されており、国内学会でもこの数年で Webcast が急速に導入されています。これにより、会場では他の講演と重なって聞けなかった講演やその場で理解することが難しかった部分を、後日 Webcast で視聴することが可能となり、非常に有用性が高いと思いました。会長の重任を果たされた宮田敏行先生をはじめ事務局の先生方に感謝を申し上げたいと思います。

第 37 回は尾崎由基男先生 (山梨大学医学部臨床検査医学講座) のもと、2015 年 5 月 21 日 (木)～5 月 23 日 (土) に甲府市総合市民会館を会場として開催されます。血栓止血に携わる多くの研究者、教員、学生の皆さんが参加されることを期待してやみません。